

# 英語科学習指導案

指導者 佐藤 美加・熊谷 綾

- 1 日時 平成15年9月29日(月) 5校時
- 2 学級 3年3組 男子10名 女子7名 合計17名
- 3 主題 UNIT 4 An American Rakugo-ka (東京書籍 NEW HORIZON English Course 3)
- 4 主題について

UNIT 4は、日本の伝統芸能である落語への関心を高める場面と中学生健が友人エレンを週末にアメリカ人落語家の公演に誘い、落語を聞きながら日米のレストランにおける注文の違いの一例を知り、双方の文化的コミュニケーションの違いに理解を深める2場面で構成されている。言語材料は、UNIT4 - Starting outでは、「疑問詞+不定詞」の形・意味・用法を学習し、表現(話すこと・書くこと)に重点をおく。Dialogでは、仮主語(It is +形容詞+ for +人+ to +動詞の原形~)を学習する。仮主語の学習は、特徴的な文型として取り上げられており、導入の際にはできるだけ具体的な使用場面を設定されることがのぞまれている。

Reading for Communicationでは、英語で語られる小話を聞き、日米の文化的な違いを学習し理解する。また、言いたい内容が英語で表現できない場合、ジェスチャーを使って意味を伝えようする姿勢を持つことの大切さも学ぶ。UNIT 4は、意思伝達の際によく使われる重要な表現を学習するだけでなく、落語家の話す『笑い』の中にも文化の違いをどのように受け止め、受容して生活しているかについても学ぶことのできる教材であると考えられる。

生徒は、今年の4月から少人数クラスで英語の授業を受けている。クラス編成は、生徒指導面を中心に考えた。5月に行われたCRT(5段階評価)検査によると英語を得意とする生徒は3名、標準生徒は2名、やや苦手とする生徒は9名、苦手とする生徒が2名という結果でクラスの半数以上が英語を苦手としている傾向が見られる。4領域別でみると、「書くこと」が最も落ち込んでいる。「書く能力」を向上させるためには音読練習と書き取り練習が不可欠と考え、リピーティングと小テストを行っている。また、教科の特性(他との関わりが必要)と英語を苦手とする生徒でも必ず英文を声に出させたいと思い、ペアになっての会話活動を授業の初めに取り入れている。これは互いに質問されて答えたことをまとめて最終的に1人ずつスピーチをする活動で全員が参加しなければならない。発表者への質問、スピーチの感想は簡単な表現であっても授業への関心・意欲・態度として評価されるので苦手な生徒も意欲的に参加している。そして、練習はペアになって行われるのでどちらか一方がサポート役になるため、お互いに努力し学力が向上している生徒も見られる。

指導にあたっては、少人数クラスとなり一人ひとりに教師が注ぐ時間は以前よりは確保されているが、授業で教師対生徒という形に極端に陥らないよう他者との関わりを意識した活動をしたと考えている。また、3年生ともなると、言語活動で使える文型の量が増し、より深い内容を学習できるようになる。しかし、英語に苦手意識を持つ生徒にとってはこの時期、「あきらめ」の気持ちが先行し、言語活動に積極的に関わるのを避けることも十分に考えられるので、Unit全般にわたり支援をおこなっていきたい。

## 5 指導計画(総時間数 9時間)

- (1) Starting Out (p.44) I know how to use a fan.....1時間
- (2) Dialog (p.45) It is difficult for me to understand Japanese.....2時間(本時1/2)
- (3) Reading for Communication (pp.46-47).....2時間
- (4) Listening Plus 4 (p.49) 落語家ビル・クラウリー.....1時間
- (5) Speaking Plus 3 (pp.50-51)道案内.....1時間
- (6) 単元の評価.....1時間
- (7) 補充・深化.....1時間

## 6 評価計画(別項)

## 7 本時の達成目標

- (1) 仮主語の文型を理解し、正しい英文を作ることができる。
- (2) 仮主語の文型を使い質問と応答ができ、情報を集めることができる。

## 8 本時の指導の構想

本時は、「仮主語の構造を理解させる」「仮主語の文型を使い、質問ができる」「情報を基に英文をつくらせる」の3つに取り組みさせて新文型の用法に慣れさせたいと考えている。仮主語の文法説明は、複雑になりやすいので詳しい解説は次回に行うことにして本時の指導では、新文型の用法に慣れさせる活動に力を入れたい。

導入場面では、生徒のスピーチを入れ、英語を学ぶ雰囲気づくりをしたい。学習課題の提示は、生徒の身近な話題を題材に教師対生徒のやりとりを通じて引きだしたいと考えている。

展開場面では、最初に基本文型の構造に慣れるためのパンプラクティスと意味の確認を取り入れ、苦手意識を持つ生徒たちが言語活動に入りやすくするための基礎をつくりたい。最初の言語活動には Structure Making Game を取り入れ、基本文型の構造の理解を図る。また、この活動は、全員が授業に参加し協力なしでは成立しないので「自分が参加しなければならない」という気持ちを持たせたい。基本文型を理解できたところで、「対話活動」から「情報」を得て、「英文に書きかえる」活用的学習に入る。仮主語での自然な対話活動を行うことに難しさがあったため第1時間目は、教師が作成した指示カードを使用する活動という場面を設定した。生徒1人1人が指令書に書かれてある内容で活動するが個人のインタビュー活動になるため声が不明瞭になる可能性が予想されるので指示をはっきりと出したい。あくまでも言葉を使うときは「相手との関わり」があることを考えさせたい。

まとめ部分では、ディクテーションを行い本時の学習が理解されているか確かめ次時の指導の目安としたい。

## 9 本時の評価の観点

- (1) 仮主語の文型を理解し、正しい英文を作ることができたか。
- (2) 仮主語の文型を使い質問と応答ができ情報を集めることができたか。

9. 本時の展開

段階	過程	時間	学習活動	評価の観点・方法	指導上の留意点・支援の方法 (○指導上の留意点 ◇支援の方法)	教材・教具等
導入	学習課題の設定	10分	1. 英語で教師と会話をする。 2. スピーチをする。 3. 今日の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">新しい文型を使ってクラスの3人から情報を得よう</div>		2. ボランティアは大いにほめたい。 3. ○既習の形容詞であっても意味の確認を行う。 ◇想起が困難な生徒のために短文でのやりとりと日本語を織りまぜて課題導入を行う。	学習課題紙板書
展開	課題追求	35分	4. 本時の基本文の意味と文型の確認をする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">It is 形容詞 for 人 to 動詞原形. Is it 形容詞 for 人 to 動詞原形? — Yes, it is. — No, it is not.</div> 5. 既習/未習の形容詞、代名詞、不定詞の意味を確認しながら口頭練習をする。 6. Activity 1 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">①各グループの一人ひとりが単語の書かれているカードを持ち、協力しながら一つの文をつくる。 ②出来上がった英文を黒板に貼りつけ席に戻る。 ③全グループの活動終了後、指名し音読と意味の確認を行う。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">6.正しい英文をつくることができる</div> 〈理解/言語・発表〉 <b>A</b> 素早く英文を完成し、正確に読むことができる <b>B</b> 英文を完成し、声に出して英文を読むことができる	4. ○文法的な説明は簡潔に済ませるが、「it」は訳さないことと「to」の後ろに主題が書かれるというところは説明する。 ○応答の仕方は、短縮した形を教えるが、後ろに詳しい内容が続いていることにふれる。 5. ○口頭練習を十分にさせ文型に慣れさせる。 ◇一斉練習の後に個別に読ませ、意味の確認を行う。 6. ◇下位の生徒にはグループの協力を得ながら取り組ませる。	代名詞カード 不定詞カード 学習詞プリント 単語カード
			7. Activity 2 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">①教師が生徒一人ひとりに指示カードを渡す。 ②生徒は指示された内容をクラスメイト3人にインタビューし、情報を集める。 ③インタビュー終了後、席に戻り3つの英文を作る。 ④指名で英文を読ませる。 ⑤英文の読み上げ終了後、発表された内容が聞き取れているかクラスにたずねる。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">7.基本文型を使い質問と応答ができる</div> 〈表現/理解・観察/指名〉 <b>A</b> 指示カードに書かれてある内容を素早く自分の力で質問し、聞かれたことにすぐ応答できる。 <b>B</b> 指示カードに書かれてある内容を学習プリントを参考に質問でき、応答できる。	7. ○質問の前に「すみません。質問してもよいですか。」「もちろん」をいうように付け加える。 ◇質問のある生徒は活動前聞きに来るようにいう。 ◇発表者の英文を聞き逃した場合は、再度発表させ聞き取らせる。	指示カード
終末	まとめ	5分	8. 本時の学習を振り返る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ディクテーションをする</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">8.本時の基本文型を使った英文を聞き、書き取りと日本語訳をつけることができる</div> 〈理解・ディクテーション〉 <b>A</b> 話される英語を聞き取り、和訳もできる。(間違えた箇所が英/和含め2カ所までがA) <b>B</b> 話される英語を聞き取り、和訳もできる。(間違えた箇所が英/和含め3カ所までがB)	8. ◇ディクテーションのときの英文の読み上げは、3回行い、2度目からはゆっくりと読む。 ○あいさつ終了後、ディクテーション用紙とワークシートを回収する。	ディクテーション用紙

時	指導内容	評価項目			
		コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
1	◎「疑問詞＋不定詞」の文の形・意味・用法を理解させ、それを運用させる。	◎疑問詞＋不定詞を用いての言語活動に意欲的に取り組む。 【観察】	◎不定詞を含む表現を使って自分の知りたい方法について話したり、尋ねる。 【活動・ワークシート】	◎基本文型を使った英文の聞き取り、書き取る。 【ディクテーション】	◎基本文の構造を理解し、正しい語順で文をつくる。 【活動・ワークシート】
2 本時	◎週末に英語の落語を聞きに行こうという題材を取り上げる。仮主語の表現を導入し、運用させる。		◎「…にとって～するのは一ですか。」という表現を用いて、インタビューし、その答えを英文にする。 【活動・観察】	◎「…にとって～するのは一ですか。」という質問に答える。 【観察・発表】	◎仮主語の文型構造を理解し、正しい語順で英文をつくる。 【活動・発表】
3	◎週末に英語の落語を聞きに行こうという題材を取り上げる。ペアで対話文を暗唱する。	◎ペアで協力して二人分の対話文を暗唱し、会話の内容を考えながら発表する。 【観察・発表】	◎対話の内容に自分たちなりのジェスチャーをつける。	◎教科書基本文のディクテーションと意味の確認を行う。 【ディクテーション】	◎英文を読むときのルールを思い出し、リズムのある音読をする。 【観察・発表】
4 ・ 5	◎日米の文化・ことばの使用法の違いをテーマとした小話を取り上げる。		◎本文音読の際、イントネーションやフォニックスに注意しながら読む。 【発表】	◎英語で語られる小話を読んだり、聞いたりして内容が理解できる。 【活動・発表】	◎日米のレストランにおける注文の仕方の違いを知る。 ◎ I'm sorry . Excuse me . の違いを理解する。 【発表】
6	◎落語家ビル・クラウリーへのインタビューを取り上げる。	◎メモをもとにクラウリーさんの自己紹介記事を書く。 【観察・発表】		◎インタビューを聞きメモをとる。 【リスニング・発表】	
7	◎道案内で目的地までの乗り物での行き方を取り上げる。「疑問詞＋不定詞(how to ~)」の復習をする。	◎ペアで協力して対話文を暗唱する。 【観察・発表】	◎目的地まで乗り物での行き方を尋ねる。 【ロールプレイ】	◎尋ねてきた相手の目的地までの交通手段を答える。 【ロールプレイ】	
8	◎海外旅行先での有用表現、苦情を述べる表現、機内放送の聞き取りを取り上げる。	◎柔らかく苦情を伝える表現、コミュニケーションで困ったときの有用表現やジェスチャーを進んで覚えようとする。 【観察・書き取り】	◎アンケートに答え苦情を書く。 【観察・発表】	◎機内放送の要点を聞き取る。 【観察・発表】	
9	◎単元のまとめ まとめテスト		◎与えられた条件で英文を自分で考え、つくる。 【テスト】	◎長文を読み、尋ねられたことについて、読みとる。 【テスト】	◎「疑問詞＋不定詞」や仮主語の構文を理解し、日本文にあうように正しく並べ換える。 【テスト】
10	◎補充・深化 Reading for Communication で扱われている動詞(過去形)と前置詞、副詞の復習を取り上げる。			◎習熟度別問題に取り組む。 【ワークシート】	

本単元の「具体的な評価規準」

1	<p>○「how to ～」を使いながら、自分の知りたい方法について質問し、意欲的に意味の通る英文にまとめる場面 〈表現の能力〉</p>	<p>A 積極的に自分で質問を考え、受け取った情報を基に、自分の力で英文を作り出している。</p>	<p>B 基本文を参考にしながら質問し、意味のとおり英文を自分の力で作りだしている。</p>	<p>C 「疑問詞＋不定詞」を含む質問文を、教師等の指導・支援でやっとな作れる。 〈支援の方法〉 活動までに使用する語の発音練習や意味の確認を行い、活動しやすい状況をつくる。</p>
	<p>○仮主語の構造に慣れさせる場面</p>	<p>〈理解／言語〉 A 素早く英文を完成し、正確に読むことができる。</p>	<p>B 英文を完成し声に出して読むことができる。</p>	<p>C 語順をよく理解していないため並べかえのとき戸惑いが見られる。 〈支援の方法〉 グループ内の協力を得ながら取り組ませたい。</p>
2 本時	<p>○仮主語の文型を使ってインタビュー活動をする場面</p>	<p>〈表現〉 指令書に書かれてある内容を素早く自分の力で質問できる。</p>	<p>B 指令書に書かれてある内容を学習プリントを参考に質問できる。</p>	<p>C 指令書で使用しなければならぬ単語が想起できない。 〈支援の方法〉 活動開始直後に質問に来るように指示を出す。</p>
	<p>○本時の活動の定着を確認する場面</p>	<p>〈理解〉 A 質問されたことを仮主語の文型を使って詳しく答えることができる。</p>	<p>B 質問されたことについて学習プリントを参考に答えることができる。</p>	<p>C 質問された内容が理解できなく答えることができない 〈支援の方法〉 活動を観察しながら、支援する。</p>
3	<p>○教科書の対話文をもとにしてペアで対話文を考え、発表する場面 〈表現の能力〉</p>	<p>A ペアで協力して二人分のパートを暗唱し、自分たちなりの工夫を加えて(ジェスチャーなど)自然なイントネーションで会話することができる。</p>	<p>B 自分のパートを暗唱し、自然なイントネーションで会話することができる。</p>	<p>C 対話文の流れをつかんだ上で不十分な発音でも表現しようとしている。 〈支援の方法〉 本文を精読させて内容を理解させながら自分のパートが暗唱できるよう指導する。</p>
4 5	<p>○英語の小話を読み内容をよみとる場面と英文を読むときのルールに注意しながら、本文を音読する場面 〈表現・理解の能力〉</p>	<p>A 英語の小話を読み示した要点以外の部分もよみとることができる。また、フォニックスのルールを理解し、本文の内容にあう音読になるよう自分なりの工夫をつけ音読できる。</p>	<p>B 英語の小話を読み、示した要点の内容がよみとれる。またフォニックスのルールをほぼ理解し、本文の内容を意識した音読ができる。</p>	<p>C 示した要点をよみとろうとするがよみとれない。 〈支援の方法〉 文をフレーズに区切り、部分的に訳させ全体を理解させる。 C 本文の内容をつかんだ上でフォニックスの理解が十分でなくとも音読している。 〈支援の方法〉 練習時に読み方のルールを指導して取り組ませる。</p>
6	<p>○インタビューを聞きメモをとる場面 〈理解の能力〉</p>	<p>A 示した要点以外の内容も聞き取れる。</p>	<p>B 示した要点の内容が聞き取れる。</p>	<p>C 示した要点を聞き取るうとするが聞き取れない。 〈支援の方法〉 空欄補充のプリントを渡し、聞き取った内容を埋めさせる。</p>
7	<p>○目的地までの交通手段を尋ねたり、答えたりする場面</p>	<p>A ペアで協力して二人分のパートを暗唱し、自然なイントネーションで会話できる。また、自分たちなりの工夫も加える。</p>	<p>B 自分のパートを暗唱し、自然なイントネーションで会話することができる。</p>	<p>C 対話文の流れをつかんだ上で不十分な発音でも表現しようとする。 〈支援の方法〉 対話文を精読させて内容を理解させながら自分のパートを暗唱できるように指導する。</p>
8	<p>○コミュニケーションで困ったときや苦情を伝える場面</p>	<p>A アンケートにもとづきコメント部分に入る語を想起できる。また、やわらかく苦情を伝える表現やコミュニケーションで困ったときの有用表現を進んで暗記し、書くことができる。</p>	<p>B コメント部分の空欄に入る語を想起し辞書や教科書を用いて書くことができる。苦情を述べる表現、コミュニケーションの際の有用表現を理解できる。</p>	<p>C コメントの空欄にはいる語を想起できない。 〈支援の方法〉 アンケートに書かれてある3つのポイントを理解させてから、空所にはいる語を考えさせる。</p>
9	<p>○UNIT4の学習事項の定着をテストで確認する場面</p>	<p>A UUNIT4で学習した内容のテストで7割以上の得点をとれる。</p>	<p>B 学習した内容のテストで6割の得点をとれる。</p>	<p>C テストで4割に満たない。 〈支援の方法〉 「部分的な和訳」「部分的な英訳」問題は確実に解かせるため、その場で説明を加えながら問題に取り組ませる。</p>
10	<p>○Reading for communicationで扱われている既習文法を難易度別の問題で確認する場面</p>	<p>A UUNIT 4で学習した内容の①「部分的和訳問題」②「部分的英訳問題」③「チャレンジ問題」まで十分にすすむことができた。</p>	<p>B 難易度問題の②の段階まで解答できた。</p>	<p>C ①の段階でとどまっている。 〈支援の方法〉 ①の問題を確実に解かせるため、その場で説明を加えながら問題に取り組ませる。</p>

学習課題

新しい文型を使ってクラスの3人から情報を得よう

【1】感想を述べる形容詞を確かめよう

good (よい) fun (おもしろい) difficult (難しい)  
 easy (簡単な) important (重要な) interesting (おもしろい)  
 necessary (必要な)

【2】文型のまとめ

肯定文

It is easy / for me / to understand / Japanese.  
 (簡単です) (私にとって) (理解すること) (日本語)

意味: 日本語を理解することは、私にとって簡単です。

It is	形容詞	for	代名詞	to	動詞原形	詳しく説明する語
It is	easy	for	me	to	understand	Japanese

疑問文

Is it easy / for him / to understand / Japanese?  
 (簡単ですか) (彼にとって) (理解すること) (日本語)

意味: 彼にとって日本語を理解することは簡単ですか。

Is it	形容詞	for	代名詞	to	動詞原形	詳しく説明する語
Is it	easy	for	him	to	undersatnd	Japanese ?

答え方

Yes. It is easy for him to understand Japanese.

No. It is not easy for him to understand Japanese.

Dictation

☆話される英文を聞き、( )内に単語を書き文を完成しなさい。 \_\_\_\_\_ には日本語  
 訳を書きましょう。

( \_\_\_\_\_ )English .

意味: \_\_\_\_\_

Name \_\_\_\_\_

☆今日の授業の感想を書きなさい。

Dictation

☆話される英文を聞き、( )内に単語を書き文を完成しなさい。 \_\_\_\_\_ には日本語  
 訳を書きましょう。

( \_\_\_\_\_ )English .

意味: \_\_\_\_\_

Name \_\_\_\_\_

☆今日の授業の感想を書きなさい。